

REPORT & INFORMATION

報告とお知らせ

ユニセフ子どもネット事務局
 (日本ユニセフ協会 広報室内)
 住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12
 電話: 03-5789-2016
 ファックス: 03-5789-2036
 電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

お知らせ

ユニセフ子どもネットニュースNo.3 ネットワーカー記者募集

内戦にゆれるソマリアの今を聞こう!

次号では、アフリカの東はしにある国ソマリアの北部の町、ボサソのユニセフ事務所長をしている中井裕真さんにお話をうかがいます。ちょうど7月にはユニセフ親善大使の黒柳徹子さんがソマリアを訪れ、中井さんはその案内をしました。

中井さんはこれまで、ミャンマー、イラク北部など、紛争が続く地で仕事をされてきました。長い無政府状態の後、ようやく政府ができましたが、まだまださまざまな勢力の間で争いが続き、混沌としています。そのような中でユニセフが活動するとはどんなことなのか、ソマリアの子どもたちはどんなようすか、ぜひみなさんの言葉で聞いてください。記者がはじめての人もだいじょうぶです。どんどん応募してくださいね。

ネットワーカー記者募集人数: 4~5人(応募者が多いときは、抽選または選考します)

応募方法: 右にある1~5までを書いて、郵便、ファックス、電子メールでユニセフ子どもネット事務局へ送ってください。

締め切り: 9月18日(木)

インタビュー日は9月28日(土)の予定です。

ネットワーカー記者の交通費は日本ユニセフ協会が負担します。

これを
書いて
送ってね

1. ネットワーカー番号
2. 名前
3. 学年(年齢)
4. 住所、電話などの連絡先
5. 中井さんに聞いてみたいこと

各地域での学習会の報告

関東学習会

6月22日

6月にひらかれた関東の学習会では、昨年の横浜会議に参加したネットワーカーが昨年度の活動を説明した後、今年どんなことをしたいか自由な話し合いをしました。そこでは、「現地の活動を見てみたい」、「もっとネットワーカーを増やしたい」、「ビデオや映画をつくりたい」、「ユニセフ子どもネットの歌をつくらう」などのアイデアがたくさん生まれました。



九州学習会

8月7日

九州では、第3回学習会が、8月7日に福岡市中央児童館でひらかれました。主なテーマは「子どもの兵士」。ビデオや資料を使って学習とディスカッション、そして、「子どもの兵士が命令されてする殺人は許されるか?」(ただし、子どもはおとなの兵士に、敵の子どもの兵士を殺すよう命じられたとする)というテーマでディベート(「許される」という立場と「許されない」という立場にわかれて、それぞれの意見をたたかわせること)をおこないました。少人数でしたが本音を熱く語り合うことができ、充実した1日でした。(新田真之介)



原画展

8月20~23日

また、福岡県のネットワーカーが協力して、8月20~23日まで福岡市中央児童館で、子ども買春や人身売買を伝える絵本『子どもの権利を買わないで~ブンとミーチャのものがたり』の原画展を成功させました。会場との話し合いや、ちらしの原案づくり、新聞やテレビへのはたらきかけなど、すべてネットワーカーが行いました。新聞にも大きく取り上げられ、また開催期間中はテレビの取材もあったそうです。



いろいろなかたちで学習会

小山みどりさんは、ユニセフ子どもネットワーカー以外の人びとも呼びかけて、新潟で学習会をおこないました。

昨年11月18日、横浜会議(第2回)子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議)に向けた学習会をひらきました。10数名の高校生が企画し、幅広い年齢層の人が参加しました。その中で子どもへの暴力防止にとりくんでいる団体「CAP新潟」の指導で護身術を体験しました。いじめや虐待などの暴力にあったときに、何が出来るかを学ぶプログラムです。口をおさえられたらその指をはがしてみ、大声を出して助けを求め、などを体験しました。最初は声小さかったけれど、最後には会場がわれるほどの声を出すことができました。「権利」を体感でき、それが子ども買春を考える上でも意義がありました。学習会を経て、子ども買春が身近に感じられなかった人も、なくしたい、もっと知りたい、伝えたい、という意見になっていきました。ひとりではできなくても、多くの人立ち上げれば世界は変わると思います。(小山みどり)

- * 学習会を企画するときには、まず事務局と相談してください。
- * 九州と新潟の学習会のくわしい報告書は日本ユニセフ協会ホームページのユニセフ子どもネットのサイトに掲載予定です。(www.unicef.or.jp) (ユニセフ子どもネットのサイトは新しくなりました! ぜひのぞいてみてください)

M E S S A G E

ネットワーカーのみなさんからの ユニセフ子どもネットニュース創刊号を読んで



世界にまだまだ困っている子どもがたくさんいることがわかり、とても勉強になりました。(井上 鈴香 12歳)

関西の人の記事がのってなかったのが残念です。関西でも学習会やりたいです。(橋本 優太 10歳)

私は、「商業的性的搾取」とは何だかよく分からなかったんだけど、分かりやすい話になってよかった。あと、ネットワーカーの感想がたくさんだったので、身近に感じることができました。(大沼 美実子 12歳)

「アフガニスタンの子ども達は今」を読んで思ったことです。アメリカは昔、日本に原爆を落としてたくさん人の命を奪ったのに、アフガニスタンでも地雷や報復戦争でたくさん人の命を奪っています。私はアメリカにイエローカードを出してほしいです。(浅岡 真理子 18歳)

ワールドカップの影響で、テレビであまりアフガニスタンやイスラエルのようすが報道されずわかりませんでした。そんなときに、記者の人たちのインタビューでくわしいことがわかりました。とてもよかったです。ぜひ世界会議に参加した他の国の人の感想も聞いてみたいです。(N.啓子 14歳)

今回の創刊号、とても分かりやすく、興味深かったです。中でも、アフガニスタンの子どもたちのことをとりあげた記事が、私が今まで思いこみで、アフガニスタンは貧しい暗い国だと思っていたけれど、違うんだなと思いました。そして、人びとがよい暮らしを送れるようになって、まだまだ地雷などの問題は残っているということも難しい課題だと思いました。今度は子ども兵士のことについても知りたいです。(中佐 友衣 15歳)

子ども達が、学校に行けないと分かり、わたしは行けるのにかわいそうだなと思いました。サヌータだけではないけれど、子どもが売られてしまい、親に会えなくて、誰かにだまされたと分かって、かわいそうでたまりません。私だったら絶対に許せません。(原島 渚 9歳)